予備合宿

西尾　毅

月四つ出たほいのようなほいのほいく、予備合宿について書くときにや思い出し出しせにやちぬ　というわけで、まずは要項から。

期日：昭和51年7月14日～17日
参加者：岩根、野崎、富田、沢本、佐藤、吉田、曽我部、西尾、ベルマ
クリッシュ（以上見学班）
コース：中軽井沢―北軽井沢㊐―嬬恋村㊐―天狗岳㊐―長野

この合宿、途中予定変更などがあって、最初の出発とは中がなかったが、彼ら一年生には予備の合宿という意味で、実に有益だった。

キャンピングはもちろん　食器のなかみ、ふりかけマーガリン、ペースト等、いちいち覚えていたが、夏合宿になって、ふりかけ何のハンガあれほど高級品にランクされようとは…

初めてのキャンピングは、口数少、バタトンの常識をうち砕いたが、もっぱらタリンゲの楽しさを教えてくれた。実に四日間充実のmと　画期的なスケジュールであった。

従来は帰宅すると　安者感ととして　金銭授行くものかという後悔の念が起ってきたものだが、今回はさほどもちろん　たっぷりとこの合宿　を輪行で、いろいろ見聞してきた。

クにとりつかれてしまった。

また、天者のため書いておこう。

○朝八分日に匹敵いらず

出発前夜、先輩が何かも詰め込むのに感動して、ついついパッキングの思と化してしまった。バック、キャリヤ、分担品等は全て輪行袋に収まったのが運のつき、翌日は死のロードそのもので、ようやく軽井沢に着き、輪行袋をあけてみると、なんと最後はキャスターは踊りまくり、フレームには傷がつくしてさんさんたった。ばか食い、ばか話めはやめたほうがよい。

○燈台もと暗し

今度は帰りの長野駅でのこと、一人早めに輪行が終ったので、涼しい顔をして時間ぎりぎりまで手伝って、急いで電車に乗ると、がーん、ないのです。そうミュラッカないのです。思いで探しに行ったが、こういう時に限って、拾ったという。事務室に届けた人がいるとのこと。うろうろしているうちに、結局一人乗り遅れて、次の列急に変らなければならなくなったのだ。すかさず一言、手荷物の多いときは、ほどほどが根性で、持って行くのがよい。さらに行方のことをきづれ付けるのが先決である。

ということで、最初と最後はたまらなかったが、何といっても最終を登った自信は大きかった。途中、予定より一日遅れたために、吉田は登らずに帰ていま、たり、実に惜しいことをした。と思う。人数が多く、ペースが乱れたり、連絡がうまくいかなかったりということがよくある。コツヘルが足りなかったりしてふたたび疑いドリーとしたが、多人数では特に、炊事係とか、ミステイクを徹底させなければならないと思った。